

令和 6 年 6 月 11 日現在

機関番号：16102

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2023

課題番号：19K14286

研究課題名（和文）自閉症スペクトラム症者の特別活動を要としたライフキャリア指導プログラムの開発

研究課題名（英文）Development of a life career guidance program that requires special activities for people with autism spectrum disorder

研究代表者

大谷 博俊 (OTANI, Hirotoshi)

鳴門教育大学・大学院学校教育研究科・教授

研究者番号：60420551

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,600,000円

研究成果の概要（和文）：自閉スペクトラム症者のライフキャリア（職業生活を含む様々な生活場面で個人が果たす役割）に関わる能力・態度について、“将来展望・設計”などの6領域の特徴を示した。またライフキャリアの能力・態度指導のために授業づくりの要件を整理すると共に、それらに基づく授業実践と授業の分析を重ねた。その結果「基本となるキャリア教育」と「課題に焦点化したキャリア教育」、そして「対話的な働きかけに基づく個別のキャリア教育」を組み合わせた多層的な支援のモデルを考案し、支援の有用性を確認した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

特別支援教育において自閉スペクトラム症者の支援は重要であり、キャリア教育の充実が求められている。そこで、本研究ではライフキャリアに着目し、能力・態度の特徴を示した。またライフキャリアの支援の中核は“授業”であるため、その要件を整理し、加えて多層的な授業の構造を想定し、実践でその有用性を確認した。このような教育課題への接近によって、共生社会の実現に向け、自立と社会参加を目指す自閉スペクトラム症者のための教育資源が、より一層充実したと言える。

研究成果の概要（英文）：This study presents the characteristics of six domains, including "future outlook and planning," related to the abilities and attitudes of individuals with autism spectrum disorder (ASD) concerning their life careers (roles individuals play in various life settings, including vocational life). The study also organized the requirements for lesson planning to instruct on life career abilities and attitudes and conducted lesson implementation and analysis based on these requirements. As a result, a multi-layered support model was devised, combining "basic career education," "issue-focused career education," and "individual career education based on dialogic interventions," confirming the usefulness of this support.

研究分野：特別支援教育

キーワード：特別支援教育 自閉スペクトラム症 キャリア教育 ライフキャリア 能力・態度 発達 多層支援モデル

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

平成 29 年に公示された小学校・中学校学習指導要領に、特別活動を要としたキャリア教育の推進が明示された。これにより、小・中・高等学校全ての教育段階での必要性が明確になったといえる。特別支援教育においてもキャリア教育実践は、就労や職業生活に視点をあてたワークキャリア発達支援と、生涯の生き方に視点をあてたライフキャリア発達支援があり、双方の重要性が認識されているが、ライフキャリア発達支援の実践については、報告が少ない。

本邦においては、学校教育段階におけるライフキャリア発達支援の実践そのものが少なく、大学生を対象としてライフキャリアの能力・態度を測定した河崎(2010)の研究と、その結果に基づく高等学校と大学での実践例(丸山,2016)は貴重である。しかし能力・態度を育む指導プログラムは今後の研究課題として提起されており、特別支援教育には言及されていない。

ところで、平成 19 年の学校教育法改正後、特別支援教育の対象として明確にされた発達障害者、特に高機能の自閉スペクトラム症者への支援の充実は、小・中学校、高等学校だけでなく特別支援学校においても重要な検討課題である。

2. 研究の目的

本研究の目的は次の 3 点である。自閉スペクトラム症者のライフキャリアの能力・態度を実証的に明らかにすること、そして、その成果に基づき、特別活動を要とする自閉スペクトラム症者のライフキャリアの能力・態度指導プログラムを開発すること、最後に、その指導プログラムの成果を検証することである。

3. 研究の方法

(1)文献研究

令和元年にライフキャリア教育や実践を検討するために、CiNii Articles において、「ライフキャリア(教育 OR 発達)(障害 OR 特別支援教育)」および「ライフキャリア(教育 OR 発達)NOT(障害 OR 特別支援教育)」をフリーワード検索のキーワードとし、キャリア教育答申以降 2012~2019 年に公表された研究・報告等著作物を抽出した。また令和 4 年に 2020 年以降 2022 年の期間に公表された研究資料を検索・検討した。

(2)調査研究

令和 2 年に 20~50 代の自閉スペクトラム症者 5 名に対して、個別聴取を行った。聴取内容は、対象者の同意を得て、IC レコーダー等で録音した。調査にあたっては、ライフキャリアの能力・態度である「将来展望・設計」、「情報収集・啓発的経験積極性」、「意志決定スキル」、「肯定的な自己理解」、「他者との関係重視」、「生活経験・ライフバランス」(河崎,2010)を参考に、19 項目作成した。録音した回答(総時間数約 158 分)は、全て文字化し、まず、項目ごとの回答内容が「有る/肯定」、「無い/否定」、「どちらともいえない」のいずれであるか評価し、「○」、「×」、「△」印を付した。次に、各回答に含まれる主要テーマを選定した。選定にあたっては、テキストデータマイニングソフトウェア Total Environment for Text Data Mining 4.3 を用いて「まとめとエディタ」機能を使用して、「主役」、「主題」、「最重要文」(砂山,2020)を抽出し、それらを参考に、テーマを端的に表す語を付した。

(3)実践研究

令和 2 年に小・中学校の特別支援学級に在籍する児童生徒を対象とした授業実践と特別支援学校小・中学部の授業分析を行った。

令和 3 年には小・中学校の授業分析(共に特別支援学級に在籍する児童生徒を含んでいる)と特別支援学校高等部の授業分析を行った。

また令和 4 年にも小学校の授業(特別支援学級に在籍する児童を含む)分析を行った。

さらに令和 5 年に小学校の特別支援学級に在籍する児童を対象とした授業実践と授業分析、そして小・中学校の授業分析(共に特別支援学級に在籍する児童生徒を含んでいる)を行った。

最後に、令和 6 年に小学校の特別支援学級に在籍する児童を対象とした授業実践を行った。

4. 研究成果

(1)自閉スペクトラム症者の「ライフキャリアの能力・態度」

自閉スペクトラム症者は、次のようなライフキャリアの能力・態度を有していることを示した。

将来展望・設計

「自身の将来」については、現在の世帯状況との関連が推察でき、親族と同居している若い世代は独居という世帯変化を予想するが、単身世帯の経験者、あるいは、現在単身世帯の対象者では、その後の生活への予測は認められなかった。一方、「将来の夢」については、有無が分かれた。また、「今後必要になると思われるので、今していること」には、趣味や生活に関する発展的な準備と健康管理などの現状を維持するための準備が含まれていた。

情報収集・啓発的経験積極性

「関心あるメディアと情報」は多様であり、現在の生活、趣味や仕事との関連が推察でき、家事のための実用的な情報を得ようとしたり、趣味・嗜好を満たそうとしたりしており、活発に取り組まれていた。一方、「職場で情報を収集したり、経験したりすること」に対する積極性は比較的乏しく、余暇の経験に対する積極性については有無が分かれた。

意志決定スキル

「困ったこと」に対する自覚があり、「対処」については、自助努力と他者への相談に分かれるが、「大切なことの決め方」は、主として他者への相談に基づいていた。

肯定的な自己理解

「生活の楽しさ」は感じているものの、「自分に対する自信」「自分に対する好感」「仕事ができる」という職場の評価」「頼りになるという知人の評価」を肯定することには「ためらい」が認められた。

他者との関係重視

「職場の人の大切さ」が強く認識されており、行動的な職務への関与や職場での人間関係など職場での気遣いを明確に示していた。

生活経験・ライフバランス

不本意な職務や辛い生活であっても肯定的に捉えたり、糧にしたりすることができていた。またライフバランスでは、趣味を重視する姿勢が認められた。

(2) ライフキャリアの能力・態度指導プログラムの開発と検証

プログラム探索のための小・中学校、特別支援学校での実践と授業分析

ライフキャリアの能力・態度指導プログラムの開発に向けて、試行的な実践と事例の分析を通して、次のようなプログラムに繋がる要点を示した。

・家庭との連携や好みの報酬を組み合わせた指導

家庭と連携した“お手伝い”の取り組みによって、児童の自己肯定感を高めるきっかけとなった。また特別活動における働く意欲を育てる体験的な活動、例えば、学級での個別の役割を重視した学級活動においては、“ポイントを得ることができる”、そして“ポイントを集めるとお楽しみ活動をすることができる”、また“活動すると褒めてもらえる”ことが動機づけとなり、主体的に取り組むことができた。

・異学年で学習集団を設定した指導

特別活動において、異学年で学習集団を構成することで、活動における役割、例えば、リーダーシップ、メンバーシップなどが明確になり、児童同士の対話が活性化された。そして役割の遂行には、児童が選択し、決定するという意思決定の過程が組み込まれていることが大切である。また断続的な活動であっても活動が計画的であることは、児童にとって見通しが立ち、役割遂行に有効であった。

・就職や進学の前準備の確認や姿勢を育む指導

職業技能のような、将来の事柄に関する自己の能力理解においては、不自然に肯定的であることがあり、自己評価と教員や保護者の評価(他者評価)が一致しているかどうかを十分に把握し、指導に反映させる必要がある。ただ、そのような場合でも自己評価を尊重し、生徒と対話しながら、本人の気づきを促すような言葉かけが大切である。また、上級学校への進学といった比較的身近な事柄についてもイメージすることは容易でなく、親近感のある人物を挙げる、思考を可視化するなどの配慮が必要であった。

・学校生活と将来をつなぐための指導

生徒にとって将来の事柄は、抽象的な“夢”を描くことはできても、年代ごとの携わる職務、暮らしの様子など具体的な“姿”をイメージすることは難しいため、想定をしやすい設定が必要であった。そして、生徒が個人で考えながらも、同年代の他者とのやりとりを通して、自分や他者の将来の姿を共有する機会をつくることも大切であった。また、現在の自分を分析し、生徒が将来の進路について目を向けるようになるためには、授業での教科学習がどのように将来に生かされているのかを生徒が実感できることが大切である。

・対話を重視した指導

役割を遂行するためには、生徒自身の障害の状態に応じた機材や用具などを準備したり、開発したりする必要があるが、教員の判断だけで、生徒に提供するのではなく、生徒と対話し、共に考えたり、申し出るように促したりすることが重要である。またこのような対話を意図的に行うことで、役割を担うための好ましい態度の理解にも深まりが認められた。

プログラム開発のための小・中学校、特別支援学校での実践と授業分析

試行的な実践と事例の分析を通して、ライフキャリアの能力・態度指導プログラムを開発した。

・社会資源の有効な活用と学級役割の明確化

社会人外部講師、例えば会社員の活用や実際の業務機器などの活用によって、児童の描く将来像が明確になり、学ぶことと自己の将来を関連づけるために有用であった。そしてこのような活動では、児童同士、児童と教員間の対話に加えて、児童と外部講師との対話が重要であった。ま

た、特別活動に関わって、児童の“係”の活動と“当番”の活動を意図的に区分することで、主体的な役割の遂行が促され、学級活動が活性化された。

・ライフキャリア発達支援のための授業の要件

令和4年度に行った、2020年以降2022年の期間に公表された研究資料に基づく文献研究の結果に本研究のこれまでの知見を加味して、ライフキャリア発達支援のための授業づくりの要件を示した。(表1)

表1 ライフキャリア発達支援のための授業における要件

児童生徒理解(実態の把握)

- ・キャリア(かかわる力、みつめる力、すすむ力、えがく力)が把握できている
- ・キャリアの能力・態度を行動レベルで把握できている
- ・特性(例えば、細部への集中、作業手順の遵守などのこだわり)が把握できている
- ・特性(児童生徒の“強み”)の生かし方が分かる
- ・児童生徒の理解においては、「夢やあこがれが、即、個人の能力と一致しているかどうか、将来実現する可能性があるかどうかを客観的に判断したり、また適性とか個人の興味や関心を実現できるか適職の探索に直ちに結びつけたりしない(渡辺,2010)」姿勢を持っている

学習目標

- ・把握したキャリアの能力・態度に基づいた学習目標が設定できている
- ・把握した特性に基づいた学習目標が設定できている

学習内容の選定・組織化

- ・イメージしやすい(イメージしやすいように工夫した)テーマを取り上げている
- ・職業的な体験や活動を取り上げている
- ・座学だけでなく体験的な学習が組み込まれている

教材・教具

- ・具体物、視聴覚教材など“見て分かる”、“操作して分かる”教材・教具を使用する

学習計画

- ・1単位時間や1つの単元だけで完結せず、他の教科学習や行事との関連性を考慮している

授業展開

- ・「私は～したい」「私は～だと考える」といった児童生徒の意見、意思、判断などが繰り返し表現できる機会がある
- ・児童生徒の意見、意思、判断などに肯定的な反応を返す
- ・児童生徒の意見、意思、判断の背景を予測(しようとする)
- ・児童生徒同士が十分に関わる機会がある
- ・児童生徒が自身の活動(言動)や仲間の活動(言動)を振り返る(積み重ねるなどの)機会がある

指導体制

- ・指導者間で上記内容を共有している
- ・保護者(関係者)と上記内容を共有している

評価

- ・把握したキャリアの能力・態度に基づいた学習目標が評価できている
- ・把握した特性に基づいた学習目標が評価できている

・ライフキャリアの能力・態度への焦点化

ライフキャリア発達支援のための授業における要件(表1)を活用することで、ライフキャリアの能力・態度に関する課題が整理され、それらを改善・克服するための授業展開の導入、教材開発などによって、課題に焦点化された授業が設計された。また本実践の結果、教員には児童のライフキャリア能力・態度に対する理解の深まりが認められた。一方、児童生徒の日常の授業においてもライフキャリア発達支援のための授業における要件、例えば、教材の活用などは確認することはできたが、部分的であり、ライフキャリアの能力・態度に関する実態や課題については捉え切れていなかった。

・焦点化したライフキャリアの能力・態度の支援

発達障害のある生徒は、その特性からさまざまな場面でストレスを抱えやすく、目立った不適応的な状態が見られなくても、学級の中で不安等のストレスを抱えながら生活を送っている生徒がいるため、そのような場合には、まず自分のストレスに気づくこと、つまり自己の理解に焦点化した支援が必要になる。生徒同士でテーマを共有し、対話を通してストレスの存在を確認し合うこと、自己評価を他者の評価と照合することは、生徒に自己の理解を深めさせるために有効

であった。

・ライフキャリアの能力・態度指導プログラム

学校におけるキャリア教育は、特定の教科や領域に限定した学習時間に行うものではなく、全ての教育活動を通して基礎的・汎用的能力を育むものである。そのため、例えば、基礎的・汎用的能力を学校教育目標などに設定し、授業づくりや指導に反映させることが行われている（例えば大谷・立和名・見谷・橋本,2021）。これは日々の授業を生かしたキャリア教育実践例であり、特別な教育的ニーズを有する児童生徒にとって、「基本となるキャリア教育」だといえる。

一方、キャリア発達や教育に関わる特定の課題に迫るための題材を設定し、授業を行ったり、指導したりすることも考えられる。これらのキャリア教育は、児童生徒の学級活動や家庭の生活を改善したり、充実したりするために必要な「課題に焦点化したキャリア教育」であり、児童生徒の発達の要となる課題への対応でもあるといえよう。

また、課題に焦点化したキャリア教育は、児童生徒が基本となるキャリア教育に取り組む過程で確認されたニーズに応えたものであり、基本的となるキャリア教育にも影響を与えることが推測できるため、前者から派生し、両者は相互に関連すると考えられよう。つまりこのように相互に影響し合いライフキャリア発達を促す教育活動は、ライフキャリア教育プログラムと呼ぶことができる（図1）。

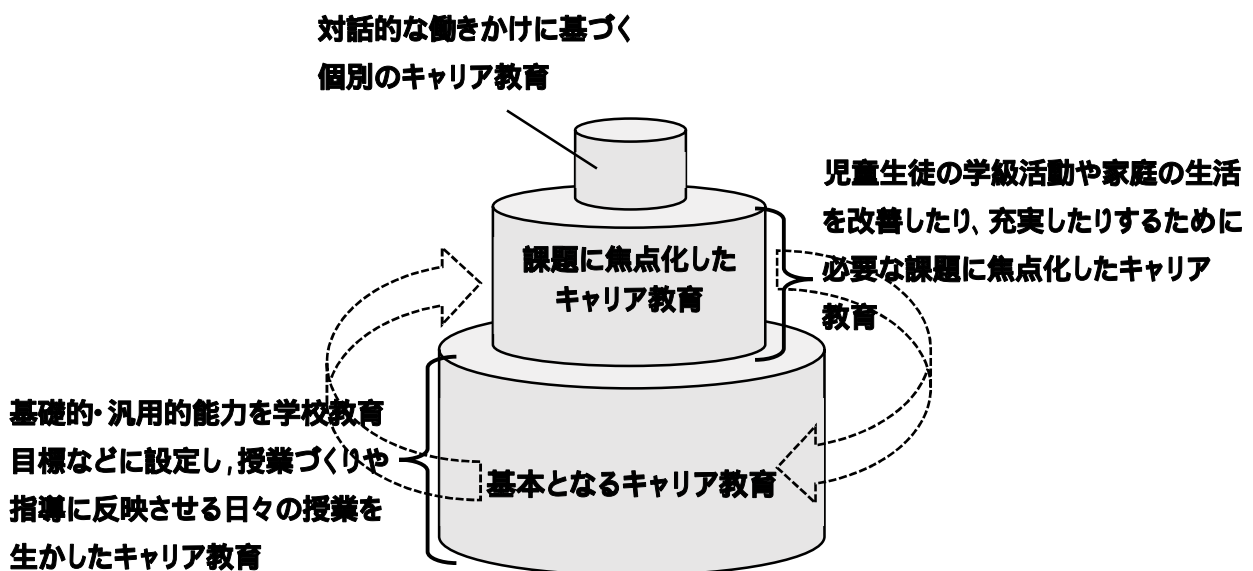


図1 ライフキャリアの能力・態度の多層支援モデル

・ライフキャリアの能力・態度の多層支援モデルの有用性

日常の算数科や自立活動の指導の取り組みを通してキャリア発達支援をすすめ、その過程から意志決定や他者との関係づくりといったライフキャリアの能力・態度に関する課題を把握し、児童の課題に焦点化したキャリア教育のための授業づくりを行った（図1）。その結果、主体的に児童同士が対話を繰り返し、意思の確認や共有を行い、互いに協力しながら図形課題を解決することができた。このことから、ライフキャリアの能力・態度指導における多層的な支援の有用性が確認できた。

<引用文献>

- 河崎智恵、ライフキャリアの能力・態度に関する尺度構成の試み、キャリア教育研究、29(1)、2010、25-30
- 丸山実子、高等学校・大学におけるライフキャリア教育の実践、奈良教育大学教職大学院研究紀要「学校教育実践研究」、8、2016、67-75
- 大谷博俊・立和名信行・見谷真希・橋本加寿代、現職教員の特別支援教育に関する教職実践力を高める 教職大学院における「キャリア教育・進路指導」の授業を通して、鳴門教育大学授業実践研究：授業改善をめざして、20、2021、53-60
- 砂山 渡、フリーソフト TETDM で学ぶ実践データ分析、2020
- 渡辺三枝子、第3章キャリア教育実践上の鍵、渡辺三枝子・鹿嶋研之助・若松養亮著、学校教育とキャリア教育の創造、2010、78-100

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計14件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 9件）

1. 著者名 大谷博俊	4. 巻 598
2. 論文標題 ライフキャリアが意味するもの	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 実践みんなの特別支援教育	6. 最初と最後の頁 28-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福井愛実・大谷博俊	4. 巻 599
2. 論文標題 小学校生活科「にこにこ大きくせん」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 実践みんなの特別支援教育	6. 最初と最後の頁 36-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前林宏典・大谷博俊	4. 巻 600
2. 論文標題 役立つ経験をとおして自己の価値を認識する	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 実践みんなの特別支援教育	6. 最初と最後の頁 26-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川聡太・大谷博俊	4. 巻 601
2. 論文標題 内面に向き合いライフキャリア発達を促すストレスマネジメント教育	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 実践みんなの特別支援教育	6. 最初と最後の頁 28-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大谷 博俊・岡田直人	4. 巻 1
2. 論文標題 特別支援教育におけるライフキャリア発達支援 ライフキャリア教育プログラムに関わる授業づくり	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 鳴門教育大学学校教育実践研究	6. 最初と最後の頁 53-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24727/0002000384	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大谷博俊	4. 巻 第37号
2. 論文標題 自閉スペクトラム症のある児童生徒に対するライフキャリア教育の検討 支援要点の確認と授業への活用に視点をあてて	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 鳴門教育大学学校教育研究紀要	6. 最初と最後の頁 1-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24727/00029659	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大谷 博俊, 米田 満紀, 濱口 智子, 酒井 夏奈, 吉松 和美	4. 巻 22
2. 論文標題 ライフキャリア発達支援のための特別支援教育の探究 教職大学院特別支援教育コースにおける授業を通して	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 鳴門教育大学授業実践研究	6. 最初と最後の頁 29-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24727/0002000267	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大谷博俊	4. 巻 第36号
2. 論文標題 ライフキャリアを育む教育プログラムのための論点整理 自閉スペクトラム症のある児童生徒に視点をあてて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 鳴門教育大学学校教育研究紀要	6. 最初と最後の頁 123 ~ 128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24727/00029351	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大谷博俊, 澤 昌志	4. 巻 21
2. 論文標題 特別支援教育におけるライフキャリア発達を支える実践の検討 教職大学院における教師教育の充実を目指して	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 鳴門教育大学授業実践研究	6. 最初と最後の頁 37-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24727/00029427	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大谷博俊	4. 巻 35
2. 論文標題 成人期自閉スペクトラム症者のライフキャリア 働く20・30・40・50代の事例からの示唆	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鳴門教育大学学校教育研究紀要	6. 最初と最後の頁 179～185
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24727/00028956	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大谷博俊, 伊藤弘道, 高原光恵, 佐藤長武, 尾関美和, 高島裕子, 山下 幸	4. 巻 36
2. 論文標題 ウィズコロナ時代における特別支援教育実践を問う 2020年度におけるA県小学校・中学校の事例を通して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鳴門教育大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 77-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24727/00028994	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大谷博俊, 立和名信行, 見谷真希, 橋本加寿代	4. 巻 20
2. 論文標題 現職教員の特別支援教育に関する教職実践力を高める 教職大学院における「キャリア教育・進路指導」の授業を通して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鳴門教育大学授業実践研究	6. 最初と最後の頁 53-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24727/00028994	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大谷博俊, 尾関美和, 井上とも子, 佐藤長武, 高原光恵, 伊藤弘道	4. 巻 35
2. 論文標題 特別支援教育におけるライフキャリアの支援	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 鳴門教育大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 93 ~ 108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24727/00028558	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大谷博俊, 高島裕子, 山下幸, 俵はるか, 田中和也	4. 巻 19
2. 論文標題 特別支援教育におけるキャリア教育実践と教師教育の検討 ライフキャリア支援に係る教職実践力向上を目指して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 鳴門教育大学授業実践研究	6. 最初と最後の頁 55 62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24727/00028864	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計4件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 大谷博俊
2. 発表標題 ライフキャリア教育の検討 自閉スペクトラム症のある児童生徒の発達支援に視点をあてて
3. 学会等名 日本特殊教育学会第61回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 大谷博俊, 福井愛実, 前林宏典, 小川聡太, 前原和明, 渡部匡隆
2. 発表標題 ライフキャリア発達から考える“わたし”を認め、育むこと
3. 学会等名 日本特殊教育学会第60回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大谷博俊
2. 発表標題 子どもの未来につながる今を支える ライフキャリア支援の成果と展望
3. 学会等名 日本特殊教育学会第59回大会
4. 発表年 2021年～2022年

1. 発表者名 大谷博俊
2. 発表標題 教職大学院におけるライフキャリア支援のための教師教育：特別支援教育におけるキャリア教育
3. 学会等名 日本特殊教育学会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------